

CASBEE 広島 2016年版 (仮称)広島二葉の星3丁目新築工事 オフィス・商業棟		■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版 欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)						
スコアシート 実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.7
Q1 室内環境					0.40		-	3.5
1 音環境				4.0	0.15		-	4.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-	
1.2 遮音				5.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能		遮音性能T-2		5.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能				-	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		-	
1.3 吸音		床(タイルカーペット)、天井(ロックウール)の二面に吸音材を採用		4.0	0.20		-	
2 温熱環境				3.0	0.35		-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50		-	
1 室温				3.0	0.39		-	
2 外皮性能				3.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.37		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20		-	
2.3 空調方式				3.0	0.30		-	
3 光・視環境				3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用				1.8	0.33		-	
1 昼光率				1.0	0.56		-	
2 方位別開口				-	-		-	
3 昼光利用設備				3.0	0.44		-	
3.2 グレア対策				4.0	0.28		-	
1 昼光制御		庇(メンテナンスバルコニー)で昼光を制御		4.0	1.00		-	
3.3 照度		平均照度500LX以上を確保している		4.0	0.14		-	
3.4 照明制御				3.0	0.25		-	
4 空気質環境				4.4	0.25		-	4.4
4.1 発生源対策				5.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		全面的に告示対象外又はF☆☆☆☆の建築材料を採用		5.0	1.00		-	
4.2 換気				3.3	0.30		-	
1 換気量		人数当たり30m ³ /hの外気導入量を確保		4.0	0.34		-	
2 自然換気性能				3.0	0.31		-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.34		-	
4.3 運用管理				4.5	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		CO2の手動監視、全熱交換器のリモコンに表示可能		4.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		喫煙室に前室を設けており、常時負圧としている。		5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能				-	0.30		-	4.0
1 機能性				3.9	0.40		-	3.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40		-	
1 広さ・収納性		執務スペース9m ² /人以上を確保		4.0	0.31		-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.31		-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.38		-	
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30		-	
1 広さ感・景観		天井高さ2.8m、十分な窓の設置		4.0	0.34		-	
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース、自動販売機設置		5.0	0.32		-	
3 内装計画		建物全体のコンセプト、機能促進に配慮した内装計画		5.0	0.34		-	
1.3 維持管理				4.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材の採用、清掃のしやすさに配慮した設計等		4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		清掃用具室への洗い場設置、各階SKの設置、容易なバルブ操作位		4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30		-	3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				4.1	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		耐用年数の長い外装材の採用		5.0	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装材の採用		5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房排気ダクトにガルバリウム鋼板を使用		4.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種の配管にB種以上を採用		5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				4.2	0.20		-	
1 空調・換気設備		熱源の二重化、重要系統の個別化を図っている		5.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		給水系統の分散、災害用排水ビッド、災害用給水栓の設置		5.0	0.20		-	
3 電気設備		非常用発電機有り		4.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		重要機器に耐震クラスSを採用		4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上を確保	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比=0.1未満	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	-	-	
ゆとりある床の耐荷重							
3.3 設備の更新性			4.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	空調配管スペースとして有効なPSを確保	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	衛生配管スペースとして有効なPSを確保	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	内装を傷めずに更新可能な計画	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	内装を傷めずに更新可能な計画	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	主要機器は屋上設置、EVで搬出入が可能	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	屋上機械置場は予備スペースが設けられている	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
まちなみ調和に配慮した景観計画							
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm]: 0.57	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMS導入によりエネルギー量を監視分析可能	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	計画的・組織的な運用・維持・保全の管理体制	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
過半の水栓に節水型器具を採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-	
場所打ちコンクリート杭のコンクリート用セメント							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-	
ボード、ビニル床材、次期質タイルにリサイクル資材を利用							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.22	-	-	
躯体と仕上げ材が容易に分別可能、再利用できるユニット材の採用							
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を1つ採用							
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)の50%以下	4.4	0.33	-	4.4
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止			低Nox認定を受けた燃焼機器を採用	4.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水流出量の抑制を実施	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐車・駐輪スペースの計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			4.4	0.40	-	-	
1	風害の抑制	風環境評価指標によるランク評価を行っている	5.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	屋外照明について、チェックリストの一部を満足している	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	